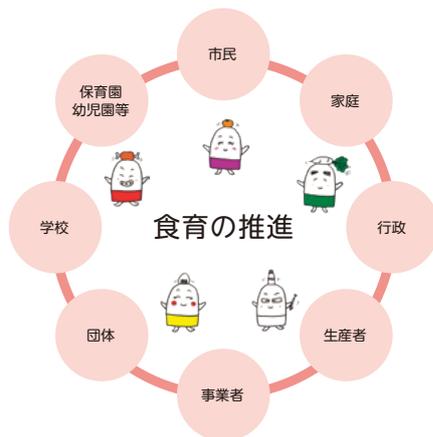


第6章 計画の推進と数値目標

1 計画の推進体制

食育の推進にあたっては、市民一人ひとりが主体的に取り組むとともに、家庭や地域、学校・園、生産者・販売者、事業者、各種団体、行政などが連携・協働して進めていきます。



2 計画の進捗管理

この計画を円滑に進めるため、中間評価を行い、計画の進捗状況を確認し、必要に応じて取組内容を修正していきます。

3 新しい生活様式における計画の推進

新型コロナウイルスなどの感染症防止策を日常生活に取り入れた「新しい生活様式」においても食育を着実に実施していきます。また、より多くの市民が主体的、効果的に食育を実践できるよう、オンラインなどICT技術を有効活用していきます。

4 食育の推進による「SDGs[※]」達成への貢献

食育の推進により、「SDGs」の17の持続可能な目標の全てに貢献ができると考えます。食育を推進する取組主体が、ネットワーク形成や働きかけ、情報共有などを行い、各課題について連携して取り組むことで、「SDGs」達成へ貢献してきます。

※SDGsとは…2015年の国連サミットで採択された、2030年を年限とする国際社会全体で取り組む持続可能な開発目標のことです。SDGsでは、誰一人として取り残さない社会の実現を目指し、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17のゴール（目標）が設定されています。



5 計画の数値目標

取組の成果や達成度を把握するため、以下のように数値目標を設定します。

基本 目標	項目	対象	令和2年度 (2020年度)	令和7年度 (2025年度)	令和12年度 (2030年度)
			現状値	中間目標値	目標値
1	食事を楽しいと思う児童・生徒の割合	小学生(5年生)	73.0%	80.0%	85.0%
		中学生(2年生)	73.3%	80.0%	85.0%
	夕食をほとんど毎日、家族と食べる人の割合	市民	50.1%	55.0%	60.0%
	食事のあいさつをしている児童・生徒の割合	小学生(5年生)	74.2%	80.0%	85.0%
		中学生(2年生)	71.8%	75.0%	80.0%
		高校生(2年生)	57.9%	60.0%	65.0%
	市主催の親子農業体験教室参加者数(延べ人数)	市民	1,364人 (R元年度実績)	6,600人	11,880人
行事食や郷土料理に関心を持っている人の割合	市民	47.0%	50.0%	55.0%	
2	食育に関心を持っている人の割合	市民	60.6%	65.0%	70.0%
	食育を何らかの形で実践している人の割合	市民	49.7%	55.0%	60.0%
	栄養バランスに気を付けている人の割合	市民	44.5%	47.0%	50.0%
	朝食を欠食する人の割合	小学生(5年生)	3.0%	2.0%	1.0%
		中学生(2年生)	4.5%	3.0%	2.0%
20歳代男性		28.0%	25.0%	20.0%	
3	学校給食における愛知県内産食材の種類の割合	小中学生	42.3% (R元年度実績)	45.0%	50.0%
	食べ残しや食品廃棄を少なくするために注意している人の割合	市民	91.5%	93.0%	95.0%
	食べ残しや食品を捨てることに関して「もったいない」と感じている児童・生徒の割合	小学生(5年生)	71.8%	75.0%	80.0%
		中学生(2年生)	78.0%	80.0%	85.0%
4	「生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等」の満足度	市民	46.6%	50.0%	55.0%
	「企業・産業団体と連携した職場での取り組み」の満足度	市民	48.7%	53.0%	58.0%